上内ふれあい
まち協
２４号
発行責任者
上内校区
まちづくり協議会
会長
野田 卓朗
編集
上内校区まちづくり協議会広報部会
令和５年
11月13日
発行



講演する石﨑副院長



健　康　講　座

地域の健康づくり

講座と血圧測定・体組成測定

令和五年度地域健康推進事業の上内校区まちづくり協議会の健康講座・測定会が十月二十二日、上内小学校体育館であった。四十人ほどが参加して大牟田市健康づくり課から「統計からみる大牟田市民の健康の特徴」と石﨑医院の石﨑勇太副院長の「健康長寿のカギは”筋肉づくり”」―フレイルからの脱却をめざして―と題した講演を聞き健康について意識を高めた。

市の統計によると、上内校区住民の健康に関する特徴は人口動態で高齢化率が市全体三七・七%であるのに上内校区は五一・四%。令和三年度医療・介護（後期高齢者）は一位が骨折、二位は関節疾患、三位が脳梗塞と続く。市担当者から上内校区のみなさんに取り組んでほしいことは①フレイル予防（転ばない身体づくり）②健（検）診の受診③生活習慣予防を挙げている。

石﨑副院長は「フレイルとは健康と要介護の間にあるもので、いかに予防するかが大事」とし、「適切な対応をとれば脱却できる」と説いた。そのうえで、筋肉づくりや食事方法をアドバイスした。

会場には血圧測定・体組織測定（体重・筋肉量・推定骨量等）や野菜三五〇㍍測定などの体験コーナーも設けられていた。



運転席からの視界チェックも行われた交通安全教室

実車からの視界体験

健康講座修了後には大牟田警察署交通課員を講師に交通安全教室が開かれた。受講者が高齢者が多いと言うことで、高齢者のための交通安全教室（歩行者編、運転者編）や運転免許を自主返納した高齢者に対する支援サービス。それに運酒運転の１１０番通報要領の説明もあった。最後は運動場に出て、実車を使って、運転席からの視界チェックも行われた。

地元の要望かなう

テープカットで祝う



駐車場の完成を待って行われたテープカット

大牟田市四ケ、リフレスおおむたの専用駐車場の完成式が十月三日、現地で行われ、関係者が出席し、テープカットなどで完成を祝った。同駐車場は階段の上り下りをせずに道路から直接施設に入れる。十五台分が整備された。

リフレスは四ケ分校の後に平成十一年に多目的複合施設としてオープン。キャンプ場の使用や自然災害の避難所、または選挙の投票場にも利用されている。関好孝市長は「地元からの要望があり、土地所有者からの寄付があって整備できた」と説明し、「新しい駐車場の活用もしてほしい」と要望。地元を代表し四ケ活性化協議会の上原弘会長は「高齢化が進み、上り下りすることなく、施設に行けることはありがたい」と感謝していた。

議会報告意見聞く

大牟田の産業報告についても



吉野地区公民館で行われた議会報告会

大牟田市議会の議会報告会・意見交換会が十月五日に吉野地区公民館で開かれた。上内や吉野などの校区から三十人ほどが参加。議会の仕組みや大牟田の産業などで説明を受け、参加者たちが意見、要望した。

これは議会改革の一環で開かれ、議員が地域に出向いて市民に活動報告を行っている。議会の仕組みでは、議員定数が現在は二十三人で順次減少している現状を報告。参加者からは女性や身体障害者などの議員の割合についての質問などがあった。

大牟田の産業については新大牟田駅産業団地について紹介があり、「平成五年度完成予定」とし、その後、誘致を受け付けるとした。ホテルの誘致の可能性についても説明があった。

ほかの項目では市の情報公開を望む声や公民館活動など地域活動が厳しくなっているなどの指摘があり、市の助成を求める声も出された。

認知症への理解を

ほっとあんしんネットワーク

全体連絡会議で意気込み示す

認知症の高齢者が行方不明になったとして今月に各校区で予定されている「第二十回大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」の全体連絡会議が九月二十一日に大牟田市文化会館小ホールであった。



拳を突き上げ意気込みを示す参加者たち

大牟田市では平成十六年十月に駛馬南校区で模擬訓練が実施され、全二十二校区に広がった。令和元年度に「ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」に名称変更された。

今後の方向性について、認知症ライフサポート研究会代表の梅﨑優貴さんが司会となし、市保健福祉部福祉支援室の松鳥哲也室長と市認知症地域支援推進員の浦幸寛さんが発表。認知症本人と家族の一体的支援プログラムに取り組むミーティングセンターでの声などが紹介。最後に参加者全員で拳を突き上げ意気込みを示した。

上内校区ではここ数年新型コロナウイルス感染症予防のため、模擬訓練が中止されてきたこともあり、今回は認知症サポーター養成講座をひらくことにした。

感謝 全力 協力　ふれあい運動会

笑顔あふれる上内っ子

児童と地域が一緒に競技



児童と住民の「玉おくり」競技



玉　入　れ



とんでまわってレッツゴー



全力KAMIUCHI組体操

上内小学校（馬籠秀典校長）の上内ふれあい運動会が十月一日、同小学校運動場であった。同校区では学校と町づくり協議会が共催して児童と地域が一緒に運動会を開いてきたが、今回は小学校の運動会に地域が協力して盛り上げる形が取られた。

上内小は児童数の減少が進み、校区の体育祭と合同で行い、地域とのふれあいが図られてきた。ところが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響や校区住民の高齢化もあり、従来のふれあい運動会での開催では厳しい状況となり、小学校の運動会に地域が参加して、地域住民と児童が一緒に競技する種目を設けた。

運動会は「笑顔あふれる上内っ子」をスローガンに「感謝、全力、協力」が掲げられた。開会式では優勝旗返還や学校長あいさつ、選手宣誓、紅白交礼などが行われ、競技は全学年が紅白に分かれて行う「綱引き」でスタート。「とんでまわってレッツゴー」「ゴールめざしてレッツゴー」に続き、児童と地域住民の「玉入れ」があり、来学年児の「元気に走ろう」、全学年と保護者は「大空高く、かふぉまでとどけ！」。数回の給水時間も設けられ、もうひとつの地域住民と児童との種目「玉おくり」もあった。その後に、児童たちの組体操や全学年が参加して競った紅白リレーは盛んな声援が送られ盛り上がった。最後を締めたのは上内の伝統芸能である「銭太鼓踊りとひゅうたん廻し」。閉会式では1点差で勝った赤組に優勝旗が授与された。

上内小でオープンスクール

小規模特認校制度によって大牟田市内在住であればどこからでも通える上内小学校はオープンスクールを実施している。十一月三十日まで。学校見学、授業参観、希望者は体験授業、個別相談も受けられる。

見学希望などの問い合わせは上内小（電話五八―〇一〇三番へ）

上内の岡天満宮伝統祭礼

「銭太鼓踊り」「ひゅうたん廻し」

4年ぶりに奉納



岡天満宮境内で披露された「銭太鼓踊り」と「ひゅうたん廻し」

大牟田市の無形民俗文化財に指定されている「銭太鼓（ぜにでこ）踊り」と「ひゅうたん廻し」が九月二十五日に岡天満宮であった。新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていたが、四年ぶりに再開された。上、下の坂井地区の人たちが準備し、ぜんでこ踊り保存会が継承している。

この祭りは江戸時代から伝わる祭礼行事。稲の豊作と子孫繁栄を祈り奉納された。銭太鼓踊りは花笠をかぶった女性たちが銭太鼓を持ち、田植えなどの稲作の動きをまねる。ひゅうたん廻しは頭にシュロの皮で作ったかぶりものをかぶった男性がうちわとひょうたんを手に踊る。

太鼓が乗った山車を引いて周辺を周り、境内に到着し、太鼓や三味線、鉦などのリズムに合わせて踊りが披露された。

閉会式では十位まで、ブービー賞（四十六位）、飛賞（二十位、三十位、四十位）、ホールインワン賞が表彰され、参加賞が贈られた。被表彰者は次のとおり

【順位】①西山輝昭81（寺公民館）21 ②石橋徹83（南公民館）23 ③西山廣昭79（寺公民館）23 ④境信剛72（下坂井公民館）23 ⑤福島栄登76（湯谷公民館）24 ⑥池田正博75（寺公民館）24 ⑦大野照代72（上坂井公民館）24 ⑧田中静昭60（椛公民館）24 ⑨江崎和代56（同）24 ⑩松尾稔彦70（下内公民館）25

【ブービー賞】古賀恵美子60（屋山公民館）35

【飛賞】20位＝田中健治73（上坂井）27 ▽30位＝松尾光子79（広瀬公民館）29 ▽40位＝池田雅利68（中尾公民館）32

【ホールインワン】田中静昭、西山輝昭、松尾光子▽西山新二（屋山公民館）。

グラウンドゴルフで交流

12チームから47人が参加

上内校区まちづくり協議会主催のグラウンドゴルフ大会（個人戦）が十月十五日、上内小学校運動場であった。大会には十二チームから四十七人が参加してホールインワンは四人が達成競技した最高齢者は八十八歳で二人。

競技は4ホールを二回プレーして総打数で競った。同スコアの場合は年齢が上の人が上位となった。



プレーを楽しむ参加者たち



3位の西山廣昭さん、優勝の西山輝昭さん、2位の石橋徹さん（左から）